DH 制度から考える 新たな日本プロ野球のリーグ構造についての研究

~A study of the new Japanese professional baseball league rules by the designated hitter.~

1K10C016 荒岡 浩輔

主査 平田竹男 先生

副査 中村好男 先生

【背景】

セ・パ交流戦は来年度 2014 年シーズンで 10 回目を迎える。これまでの交流戦においてセ・リーグとパ・リーグの成績を比較してみると、2009 年度を除く全てのシーズンの交流戦でパ・リーグの総合勝利数が多く、優勝チームの所属リーグを考えてみても全 9 回のうちパ・リーグ所属のチームが 8 回も優勝している。この 2 つのリーグの実力差はパ・リーグが約 40 年前から指名打者制度をシーズン通じて採用しているからではないのか。

【目的】

DH 制度から考える今後の日本プロ野球の新たなリーグ構造について提言することを目的とする。

【方法】

① 2005 年度~2013 年度シーズンの交流戦における各リーグの指名打者の打撃成績の分析

(分析対象) 2005 年度~2013 年度の全 9 回の交流戦においてパシフィックリーグ主催の試合で指名打者として打席に立った全選手。

(分析方法)

(1) 交流戦における全指名打者の打撃成績を調査する。打撃成績に関しては『打数』『安打数』『打率』『本塁打数』『四球』『死球』『犠打数』『打席数』『出塁率』について調査することとする。

(2) 全選手の打撃成績をまとめたものを利用して各球団の合計値を算出する。『打数』『安打数』『本塁打数』『四球』『死球』『犠打数』『打席数』に関しては単純に全選手のもの合計し、『打率』と『出塁率』に関してはその他の合計された値から算出する。これは指名打者として打席に立った選手の数により値にバラつきが出るのを塞ぐためである。『打率』は【『安打』÷『打数』】という計算を行い、『出塁率』は【(『安打』+『四球』+『死球』)÷『打席数』】という計算を行うこととする。

(3) 最後に手順の 2 で出したデータをもとにリーグ別で『打数』『安打数』『本塁打数』『四球』『死球』『犠打数』『打席数』は合計し、『打率』と『出塁率』に関してはその他の合計された値から算出する。これらの計算によって出た両リーグの各項目の値を 1 つずつ比較していく。

② 早稲田大学硬式野球部 4 年丸山達也投手に対して

DH 制度に関するインタビュー

- 1) 指名打者制度に個人的に賛成か? 反対か?
- 2) ピッチャーの視点から考える指名打者制度とは?
- 3) 指名打者制度からピッチャーが得られる恩恵はあるのか? の 3 つとする。

【結果】

① 結果 表: 2005 年度~2013 年度における両リーグの指名打者の通算成績

平均・合計	打数	安打	打率	本塁打	四球	死球	犠打	打席数	出塁率
パ・リーグ	2592	658	0.253858	112	319	27	33	2961	0.339075
セ・リーグ	2757	675	0.244831	71	221	26	21	3025	0.304793

『打率』『本塁打数』『四球数』『死球数』『犠打数』『出塁率』の 6 項目でセ・リーグを上回ったパ・リーグの指名打者のほうが 2005 年度~2013 年度の交流戦では良い成績を収めたと言える。

② 結果

- 1) 個人的は失点後に自分の打席で点を取り返したいという思いもあるので一概にどちらがいいとは言えない。
- 2) 投手への代打などが少なくなりチームの戦略がスムーズに進み、中継ぎなどのアップ作業が行い易い。
- 3) 打席や走塁時の怪我の防止と疲労軽減の効果がある。

【考察】

パシフィックリーグの指名打者は出塁率が高いうえに本塁打が多く、チームの得点に結びつく働きのできる高度な技術をもつバッターが多いことは明らかである。この交流戦における指名打者の大きな成績の差はセントラルリーグが未だに指名打者制度をシーズン通じて採用せず、そのシステムに順応できていないということが原因だと考えられ、今後も採用しないようならこの差は開いていく一方ではないのか。

怪我の防止やコンディションの調整、疲労軽減などの面において指名打者制度導入によってピッチャーが得られるメリットは大きいと考えられる。

【結論】

両リーグの実力差を埋め、野球ファンが楽しむことができる接戦を増やすこと、セ・リーグの投手が指名打者制度から受けるメリットを考えた上で、セ・リーグはシーズンを通じて DH 制度を採用すべきだとここに提言する。